

まち・ひと・しごと創生総合戦略への評価・コメント

1 基本目標Ⅰ：屋久島町の特徴を活かした働き方の確立と経済活動の循環

- 観光市場の回復に伴い、ここ数年動かせていなかった事業にも一部明るい兆しが見えてきているように感じた。観光の受け入れ態勢や特産品等を使った産業振興については、一部成果も出てきており、かつ、このコロナからの回復により真価を発揮するところだと思う。せっかく整えた環境を存分に生かすためにも、反転攻勢という点で、“受け入れる”だけではなく“取りに行く”攻めの姿勢を期待したい。(具体的には積極的な情報発信や、より効果のある手法を見つけていくうえでのマーケティングや市場調査等)
- 観光を中心としたまちづくりを屋久島は必須ではないかと思っている。観光を中心とし、観光まちづくり課個別ではなく、産業振興課の皆さんと交流をしていかないといけない。地域の経済にもかかわる。単独で動くよりもみんなで動いていく方向で進めていけたらと思う。移住者の外からの意見も含めてみんなで話ができることも必要。
- 海外の方は、縄文杉に往復10時間もかけて行かない。屋久島の自然を体験すること、空気感を大切にしていると感じる。今後インバウンドの力はどうしても必要になって来る。山だけでなく地域に広げていくには観光を中心とした、いろんな産業のかかわりが必要。
- 最大の観光地はインターネット、ここで第一次情報を得て、第二次情報で行先を選ぶ。その国に入ってから第三次情報で行先を選ぶ。そこで何かのインパクトや情報が入ってない限り屋久島には来ない。情報の受発信と仮想現実ではできない現実的に人とコミュニケーションをとる、会話をする、味わうとかをやる仕組みが大事になってくる。屋久島の良さは体験している人はわかるけど。未来屋久島に来ようという人の情報の触れ方には非常に格差がある。
- 観光協会と一緒にたんかんプロジェクトも取り組んでいる。屋久島の魅力を利用して頑張っていきたい。
- 一次産業でいうと、形のきれいなものは商品に出して、形の揃わない商品にならないものは観光業者が活用していくことも必要。こういうことはいろんなことでできると思う。

2 基本目標Ⅱ：屋久島を起点とした教育・交流・移住サイクルの確立

- 関係人口という観点では、観光入れ込み客数の増加が期待できる一方で、人口増加に向けた移住・定住の強化という点では課題が多いように感じた。特に“住む場所がない”という点については、島内外問わず上がってきている課題のように見受けられ、それにより移住に関する問い合わせが増えていても実質増やすことができないというのは非常にもったいない気がする。どうにか町のほうでも支援をし、改善できることを願う。
- 地方への新しい流れを作るというところで、平内集落は26集落のうち人口が10番目ぐらいだったけども今は5番目の集落である。移住に積極的で、空き家を紹介し、売買も進めている。魅力ある島なので、民宿やシェアハウスも利用し、経験していただいて移住をしてもらうことも必要。移住している女性と屋久島の男性との交流も進めている。
- 屋久島に転入される方、どの地区からが多いのかということが分かると、好感が高いところに時間や経費を割くとか今後のPR戦略が打ちやすくなる。移住者がどの地区に多いのかというのは、地域のコミュニティ形成に関わってくる。そういったデータ分析も必要。
- 地元への就職というところで、屋久島高校から地元就職する子がいるのに驚いた。どこも人

手がたりていない。屋久島を離れて、また帰ってきてもらうことも含めて、離島というハンデもあるけど、強みもあると思う。

- 中高生に地元はどういう企業があるのか、地元の企業の魅力を知ってもらうこともいいのではないか。地元の企業の魅力を知ってもらえば、いつかは帰って来るという進路を選択する上での一つの参考になるかもしれない。

3 基本目標Ⅲ：結婚・出産・子育て等のライフステージに応じたバックアップの充実

- 結婚、鹿児島県法人会連合会が鹿児島県からの委託を受けて運営している「かごしま出会いサポートセンター」があるが、女性は多いのに30代の男性の登録が少ない。アプリなどより安価で活用できるので屋久島の方の登録を促してほしい。
- 中高生に地元の企業を知ってもらう取り組みも必要だと思う。ホテルなど地元企業の魅力があることを知ってもらえば、いつかは帰って来るという進路を選択する上での一つの参考になるかもしれない。

4 基本目標Ⅳ：多様なプレイヤーで築く、安心・安全な循環型社会の実現

- SDGsの観点から、「エコアイランド 屋久島」というような打ち出し方も国内外に効果的だと考える。縄文杉・世界自然遺産という屋久島の持つ特異性と既に認知されたネームバリューだけでなく、今後を見据えた屋久島のブランディングと、それを謳うだけの環境づくりを取り組み、屋久島の新たな魅力創出と、永続的な街の発展を今後も期待したい。
- 持っている資源は超一流だと思うが0.、保存・保護・保全が必要。手を加えて守るもの、絶対に手を加えないそのまま残すもの、地域の中で有効活用していくもの。こういう概念が混同して使われている。地元の皆さんが環境の問題と観光の問題のギャップをよく考えてミスマッチしないような取り組みをしないといけない。

5 全体

- プロジェクトの関連する事業に重点度をつけて、強み・弱み・脅威・チャンス、4つの項目分け。現在はフラットである。強みは伸ばす、弱みはそのまま維持するといったソート分析が必要。弱みを強みまでもっていくのはかなり大変なことである。
- チャートがあるとよい。観光・環境のチャート、子育て・福祉のチャートみたいな形で、いくつかのチャートがあって、それが縦につながって全体の政策決定に繋がっていくという形になれば非常にいい。
- 屋久島の知名度は抜群なので、町内外との連携、町内での整合性、そして未来を担う子どもたちということを考えていかないといけないということの合意形成に繋がっていくのではないかな。